

評価結果反映状況一覧
【令和2(2020)年度版】

※評価委員会評価がs、a、b、c、dの評価のうち、b(概ね達成)以下の評価項目(小項目)に対する反映状況を掲載

評価項目 (全体評価・大項目・小項目)	委員 会評 価の ↑↓	評価における主な指摘事項 *小項目順に記載 【対象：R2年度(2020年度版)】	法人の業務運営等への反映状況 (R3年度)	自己 評価 R3年 度
大項目				
小項目	評価委員会の評価がb又はcであった項目			
1	17	<p>(学生の英語力の向上) TOEICの点数の底上げなどは、他大学との比較において優っている点は評価する。ただし、3年連続で目標値を達成しておらず、中期計画の目標達成に向けて、各小項目における英語力向上の取組みの見直しを含めた抜本的な対策をとる必要があると考えられる。この取組みは県立大学の特長の一つでもあり、しっかりと取り組んでいただきたい。</p>	<p>法人の業務運営等への反映状況 (R3年度)</p> <p>2年次の239人の学生が2月にTOEICをオンラインで受験し、600点以上の割合は55.7%(初年度：46.0%)、平均点については612点(初年度：560点)と、これまでで最も高くなつた。600点以上の学生の割合は、入学時の14.7%から大きく増加、平均点についても、入学時の508点から104点向上した。</p> <p>目標達成については、1・2年次での英語集中プログラムの着実な実施のほか、令和2年度までのTOEICの結果を教員間で共有し、各科目において授業改善を行った。また、これまでの結果の検証から、令和4年度以降の新カリキュラムについて検討を進め、健康推進学部の2年次にネイティブ教員の担当科目を新たに設定した。</p>	c

3	24	b	<p>(GPAを用いた成績評価) GPAを活用して学生の成績評価を実施しているが、その結果を授業内容や授業方法等の改善につなげるよう、更に取組みを進めていただきたい。</p>	b	<p>複数教員が担当する「発信力ゼミ」では、令和2年度に構築したルーブリック（評価基準）を活用し、担当教員間での認識共有を行うなど、授業評価の公平性を図った。 今後はGPAの分布の検証や課題の整理などを行っていく予定。</p>
5	50	c	<p>(科研費の申請率、採択) 長野県立大学では、地域の産業や文化に基盤を置く基礎的な研究の実施を研究目的の一つとして掲げている。科学的な研究の新規申請率は他大学と比べて遜色はないものの、新規申請にあたっては、例えば基盤A研究や基盤B研究の様に、総合的で大規模な基盤研究の獲得を大学一体となつて目指していただきたい。</p>	c	<p>本学教員が研究代表者となっている科研費の採択率は42%（新規申請者数：12人、採択：5件）と、全国平均（30%弱）と比較すると高くなっている。 また、令和3年度の本学教員が研究代表者となっている科研費の件数は20件（うち基盤B研究は1件）、分担者としては21件（うち基盤B研究は4件）の研究を行っているほか、6件の受託研究を行うなど、外部資金の獲得としては一定の成果をあげている。 科研費申請・採択の促進策として、名古屋市立大学の郡健二郎学長より、申請書の書き方に関するFD研修を実施（7月、48名受講）した。</p>
大項目	小項目	自己点検・評価より評価を下げた項目			
11	90	↓ b	<p>(ハラスメントの防止) コロナ禍で対面によるハラスメント研修を実施できなかった点は考慮するが、様々なハラスメントがあり重要な問題となっている中で、オンライン研修による代替措置等も活用し、対策を推進されたい。令和2年度は、教職員向け研修や相談員向け研修等の啓発・教育が実施されたいため、法人の自己評価より低い評価とした。</p>	a	<p>常勤の教職員（有期の事務職員含む）を対象にオンデマンドによりハラスメント研修を3月に実施した。（受講者75名）</p>